

Ⅲ 尾張地域の重点プロジェクト

【地域の特徴】

尾張地域は、名古屋市及びその近郊の18市町からなり、愛知県人口の6割弱を占める都市地域であり、大消費地を擁する地理的な条件を生かした農業生産地として、古くから米や野菜の栽培が盛んである他、果樹、花きなど、多種多様な品目が生産されています。また、主な林産物にはシイタケ、水産物にはアユ、サツキマスもあります。

しかし、近年は、宅地等への転用による農地の減少、担い手の不足や高齢化等による耕作放棄地の増加に加えて、販売価格の低迷や生産資材価格の高止まりなどにより農業所得は総じて減少しており、都市農業を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

また、集中豪雨や大規模地震等の発生が危惧される中、農地や森林が持つ防災機能を高める取組がますます重要になっています。

【重点プロジェクト】

尾張地域の特徴と課題を踏まえ、「多様な担い手の確保・育成」、「地元応援対策」、「防災減災対策」の3つを、地域にとって重点的に取り組む課題として、次のように3つのプロジェクト、7つのテーマを設定し計画的に実施しました。

尾張地域の重点プロジェクト

- 1 あいちの農業 元気な担い手の確保・育成プロジェクト
 - (1) 多様な担い手の確保・育成
 - (2) 水田農業の維持・発展
 - (3) 園芸産地のパワーアップ

- 2 地元応援プロジェクト
 - (1) 都市農業の推進
 - (2) 直売所の地域交流拠点化
 - (3) 地産地消・ブランド力の強化

- 3 県民の命を守る防災・減災対策プロジェクト

尾張地域の重点プロジェクト 2020年度(令和2年度)の取組

1 あいちの農業 元気な担い手の確保・育成プロジェクト

(1) 多様な担い手の確保・育成

～市町・農業団体等の農業塾と連携・協力して「新しい担い手」を育成します～

新たな担い手の確保のため、一宮市・稲沢市・JA愛知西が運営する「はつらつ農業塾」に対して、講義や栽培指導、就農計画作成等を支援しました。

また、犬山市を中心とした「犬山東部じねんじょ部会」で、部会の仲間を増やし、産地の裾野を広げるためのサポーター制度や、部会共同ほ場の運営を支援しました。

取組内容①

一宮市・稲沢市・JA愛知西は、2014年度(平成26年度)に「はつらつ農業塾・担い手育成コース」を開講し、JAの出荷組織に加入する担い手の育成に取り組んでいます。

このコースでは、カリキュラムに沿って2年間の研修を受け、就農後はJAの出荷組織に加入します。

県は、入塾説明会で営農モデルを説明し、面接官や講義の講師を務めるとともに、個別ほ場の栽培管理指導や農業次世代人材投資資金の活用支援、就農計画の作成支援等を通じて、塾生がスムーズに就農できるよう支援しました。

2020年(令和2年)8月には5期生2名が、なす部会、稲沢園芸組合に加入し、農業経営を開始しました。今後も引き続き、栽培技術や経営の指導を通じ、定着に向けた支援を行います。



青年等就農計画についての講義



研修状況について確認

取組内容②

「犬山東部じねんじょ部会」は犬山市を中心に15名で組織されており、ジネンジョ「夢とろろ」は、地元の特産品として広く認知が進んでいます。部会員を増やし、産地の裾野を広げるため、2016年度(平成28年度)から、部会活動をサポートする「サポーター」を一般住民から募集しています。主な活動は、種芋生産網室及び部会共同ほ場の栽培管理作業です。サポーターや新規部会員は、ベテランの指導を受け、和気あいあいと作業しながら、栽培技術を習得できます。また、技術習得したサポーターは、部会に加入することもできます。2020年度(令和2年度)には、新規部会員のための販売研修会も開催されました。県は、栽培指導などを通じて、サポーター及び新規部会員の受入体制の整備を支援しました。これまでの5年間で、のべ25名のサポーターが活動に参加し、その中から6名が部会に新規加入しています。



共同ほ場での作業風景



新規部会員のための販売研修会

1 あいちの農業 元気な担い手の確保・育成プロジェクト

(2) 水田農業の維持・発展

～大規模個別経営体やJA出資法人等を核に水田農業の確立を目指します～

管内では、岩倉市において、県の「あいち型産地パワーアップ事業」を活用し、水田農業の維持発展と農家所得向上に向けて「色彩選別機」の整備を行いました。

また、尾張東部地域において、愛知県農業総合試験場が育成した、夏季の高温に強い品種「なつきらり」の導入支援を行いました。

取組内容①

○色彩選別機の整備

JA愛知北は、岩倉ライスセンターの改築に合わせて、県の「あいち型産地パワーアップ事業」を活用して、色彩選別機を整備し、2020年(令和2年)9月7日に竣工式を行いました。

これまで、岩倉地域では温暖化の影響で越冬量が増えたカメムシの吸汁害に起因する斑点米が多く、恒常的に1等米比率が県内平均を下回ってきましたが、今回の色彩選別機の導入により2020年(令和2年)産のお米は全量1等米という高評価を得ることが出来ました。

今後も消費者に安定した品質のお米を提供することが可能となるだけでなく、生産者の経営安定に寄与することが期待されます。



色彩選別機

取組内容②

○水稻高温登熟耐性品種「なつきらり(愛知123号)」の導入

近年、夏季の高温により白未熟粒発生が増え品質低下が問題となっているため、尾張東部地域で愛知県農業総合試験場が育成した夏季の高温に強い品種「なつきらり」の栽培管理支援を行いました。品質基準をクリアするため、土壌診断に基づいた施肥及び適期の収穫、春先の気温が不安定な時期の育苗管理について重点的に助言・指導を行いました。施肥や防除が適切に行われた結果、白未熟粒は少なく農産物検査結果はすべて1等となり、品質基準をクリアした米は愛知県のブランド米「愛ひとつぶ」として販売されました。

天候の影響により、品質基準をクリアするための栽培管理は難しいものの所得向上につながることから、次年度の栽培面積は約3倍に拡大される見通しとなりました。



なつきらりの田植え

1 あいちの農業 元気な担い手の確保・育成プロジェクト

(3) 園芸産地のパワーアップ

～施設園芸におけるICT活用と

露地野菜産地のパワーアップを図ります～

管内の産地が抱える課題と対応策を関係者で話し合い、産地の維持・発展のための計画（産地戦略）を産地ごとに策定しています。その目標の実現を目指して、実証試験の実施や機材等を導入することで、産地のパワーアップを図りました。

取組内容①

○だいこん産地をパワーアップ

J A 愛知北を始めとした関係者で、産地の維持・発展のための計画「産地戦略」を策定し、その産地戦略に基づき「J A 愛知北大根産地戦略実証協議会」が、2つの実証試験に取り組みました。

①「アシストスーツ及びだいこん引抜機の実演」

だいこん栽培の中で、最も負担となる収穫作業を省力化するために、作業を補助するアシストスーツやだいこん引抜機の実演会を開催しました。腰への負担がかなり軽減できると生産者に好評で、産地での導入に向けてさらに検討していく予定です。



アシストスーツ着用の様子

②「不織布を使用した栽培技術の検討と晩抽性品種の選定調査」

春だいこん栽培では、トンネル被覆に労力がかかります。そこで、被覆作業が簡易な不織布によるべた掛け栽培の実証ほを設置しました。また、べた掛け栽培では低温の影響を受けて花芽が出来てしまう可能性があるため、花芽が出来にくい品種を調査・選定しました。今後さらにその効果を検討していきます。



だいこん引抜機

取組内容②

○施設なすの土壌水分管理の指針を作成

「J A 愛知西なす協議会」は施設内環境制御の取組が盛んで、2019年度(令和元年度)に環境モニタリング装置「あぐりログ」に接続可能な土壌水分センサーを導入して、土壌水分の見える化に取り組み始めました。

今年度は、土壌水分センサーを導入した8戸のは場において、かん水量が増加する4月から6月までの土壌水分やかん水状況のほか、土壌の乾燥によって発生する葉の萎れやつやなし果の程度を調査しました。

調査結果から、4月にはつやなし果が発生し始め、慣行の土壌水分管理ではかん水量が不足していることがわかりました。そのため調査結果に基づき、時期ごとにおける、かん水を開始する土壌水分の目安をまとめました。さらに、協議会の若手生産者グループが中心となって作成した栽培管理指針に、土壌水分管理の項目を追加して全協議会員に周知し、今までより適切な水管理が行われるようになりました。今後はより多様なほ場条件に適した土壌水分管理を目指していきます。



土壌水分センサー



あぐりログ

2 地元応援プロジェクト

(1) 都市農業の推進

～市町や農業団体等と協力して、農業体験の取組を通して農業の理解促進を進めます～

新鮮な農作物の供給、防災空間の確保など、多様な機能を有する都市農業の維持・発展を図るため、市町、農業団体等と連携して、農業体験の取組を支援しました。都市住民の方々が自ら農作業を体験できる市民農園などの情報を提供しました。

取組内容

農地をもっていない都市住民が、自家消費などのために家庭菜園として利用できる市民農園を開設するには、特定農地貸付法や市民農園整備促進法を活用することになりますが、県では、市民農園や農業体験農園を開設するための相談や支援を行っており、管内では、現在5,077区画・172農園があります。

こうした市民農園や農業体験農園に関する情報サイトを、県民に広くPRするため、事務所内ホームページに開設しており、毎年その情報を更新しています。

2 地元応援プロジェクト

(2) 直売所の地域交流拠点化

～直売所を地域交流拠点として、生産者と消費者との交流を促進します～

直売所を地域交流拠点として活性化するために、尾張地域直売所交流拠点化連絡会議を開催しました。

取組内容

2020年(令和2年)10月15日に、JA尾張中央グリーンセンター桃花台において、管内の4JA、JA愛知中央会、名古屋市及び県関係者が参加し「尾張地域直売所交流拠点化連絡会議」を開催しました。

当日は、生産技術の向上と地元農産物の消費拡大のため実施している取組として、生産部会で技術を学んだ生産者にポイントシールを配布し、農産物を購入した消費者が20ポイントを集めると商品券が当たるというキャンペーンが紹介され、消費者と生産者をつなげる取組について、意見交換が行われました。

その後、JA愛知中央会から「県内直売所の取組と課題」、県農業振興課から「本県の直売所の取組」について説明が行われ、各JAからは新型コロナウイルス感染症による巣ごもり需要を受けて、直売所売上が増加したことや、家庭菜園の需要の増加に伴い、種苗売上也増加したことなどの報告がありました。

今後も、構成員とともに、尾張地域直売所の連携強化を図る取組を推進していきます。



グリーンセンター桃花台
店内



ゲーピーポイントシール

2 地元応援プロジェクト

(3) 地産地消・ブランド力の強化

～地元の人が地元のモノを愛し、地元のモノを買って食べる

「地元応援」キャンペーンを展開します～

県産農林水産物等を活用し、食と花をテーマとして地域の活性化と観光振興に向けた活動を行う地域を認定する「食と花の街道」の取得を推進しました。

稲沢市祖父江町が尾張管内初の街道となる「祖父江ぎんなん街道」の認定を受けました。

取組内容

稲沢市祖父江町には、1万本を超えるイチョウの樹が点在しており、ぎんなんの生産量は全国屈指を誇ります。

その地域ブランドを強化・保護するために、JA 愛知西が「祖父江ぎんなん」を地域団体商標に出願し、2009年(平成21年)に登録されました。また、「祖父江ぎんなん」のブランド強化を図り、生産者やJA、関係機関が情報交換や交流等を行うために「祖父江ぎんなんブランド推進協議会」が設立されました。祖父江ぎんなんは、大粒でもっちりとした食感が特徴であり、市内に祖父江ぎんなんを用いた料理や加工品を提供する店舗が点在しています。

そこで、それらの店舗を街道としてひとまとまりにし「祖父江ぎんなん街道」と認定しました。

認定式では、大村知事から祖父江ぎんなんブランド推進協議会顧問の加藤錠司郎稲沢市長と副会長の光田二郎氏に、県産材で製作された特製認定証が授与されました。式には、稲沢市マスコットキャラクター「いなッピー」、银杏をモチーフとした「ぎんこなっちゃん」も訪れ、認定式を盛り上げました。

今後も、祖父江ぎんなんのさらなる知名度向上と消費拡大を目指し、地域一体となって祖父江ぎんなんの魅力をPRしていきます。



街道内で提供されている
银杏ラーメン



街道内ではイチョウの
樹が点在



知事を囲んで記念撮影

(左：ぎんこなっちゃん 右：いなッピー)



県産材で製作
された認定証

3 県民の命を守る防災・減災対策プロジェクト ～県土の強靱化を図り、農山漁村の豊かな暮らしを守ります①～

安定的な農業経営や県民の安全・安心な暮らしを実現するために、農業用排水機場、農業用排水路の整備による耐震化等を推進しました。

取組内容

○農業用排水機場の整備

二俣排水機場は、1974年度(昭和49年度)に設置された排水機場で、1992年度(平成4年度)に設置された二俣第2排水機場とともに稲沢市南西部一帯の農地、農作物、農業施設等の湛水被害を防止する重要な役割を果たしてきました。

しかしながら、耐震構造となっていないことや建設後の流域開発による流出量が増大したこと及び経年劣化に伴う既存施設の機能低下等により、地区内低平農地等では排水不良が顕在化し、しばしば湛水被害が生じています。

このため、二俣排水機場を改修整備するとともに、排水機場に流入している排水路の改修に2014年度(平成26年度)から着手し、2020年度(令和2年度)までに改修を行いました。

湛水被害の状況 (イメージ)



二俣排水機場



3 県民の命を守る防災・減災対策プロジェクト ～県土の強靱化を図り、農山漁村の豊かな暮らしを守ります②～

山地災害から人命・人家を守るため、治山施設の整備・維持管理や適切な森林整備を進めました。

取組内容

○治山施設の整備

瀬戸市始め3市で、「治山事業」による山腹・溪間工事を実施しました。

山腹崩壊を防止するための土留工や、流水による溪床の侵食を防止するための谷止工などを施工し、山地を起因とする災害の未然防止対策を図りました。

○森林整備

「あいち森と緑づくり事業」や「治山事業」により、瀬戸市始め3市で、手入れが行き届かず、枯損木の発生や樹木の繁茂により、下層植生が衰退するなど、機能低下の恐れのある森林の間伐等を整備しました。

森林を適切に保全・管理することにより、土砂災害の防止や水源かん養など森林の有する多面的機能の向上を図りました。

過去の山地災害



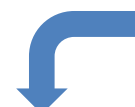
溪流からの土石等流出



山腹斜面崩落



治山施設の整備状況（犬山市）



森林整備（小牧市）